

「聴く」に徹する」について

いのちの電話の相談員になって一年が過ぎました。研修で何度も教わった一番大切なこと、それは、「聴くに徹する」ということ。利用者さんは、自分から電話をかけてきてくれます。それは、自分の話を聞いて欲しいから。なので、相談員が話をしたくなくても、なるべく我慢して、利用者さんの話を聞いてあげること、それが大切なことだと理解しました。

私は、忠実にそれを守って利用者さんの話を邪魔しないように、利用者さんが話したことに「なるほど」、「そうなんですか」と相づちを打つようにしてきました。

概ね、その対応の仕方は、上手くいっていると思っていました。でも、時々、利用者さんと上手く気持ちが通じていない感じがする場合があります。なぜなんだろう？聴くことに徹しているのに……私は、悩みました。そして、何度も何度もそういう経験をしたのちに、大先輩にこのことを話したところ、その大先輩は、その理由を明解に教えてくれました。

「そうなんですかね」は、「そうなんですか」よりはいい。でも、「そうなんですかね」だけだと、会話を邪魔はしないが、利用者さんとしては、本当にわかってきているの？と不安になる。聴くに徹するだけでなく、疑問に思ったことは確認したり、相談員が話を聞いてどう思ったのかを伝えることは、利用者さんにとって、理解してくれた証になる。会話のキャッチボールをする中で利用者さんは、この人になら話してみようとなる。」

研修で習った「聴くに徹する」ことは、基本中の基本。話をしたくてしたくてたまらない利用者さんには、相づちだけで上手くいくのでしようが、利用者さんも千差万別。それぞれに合わせて対応を変えられるようになることが必要だと痛感しました。

一度きりの電話で、利用者さんが何を相談員に求めているのかを把握し、それぞれに合った電話をしていくのは難しいことですが、これからも悩みながら、真剣に丁寧に相談電話を受けていきたいと思っています。

(50代 男性相談員)

電話相談の現場から

「聴くに徹する」について



KOKORO LETTER

広報

相談電話 **052-931-4343** 365日 24時間
ナビダイヤル 0570-783-556 受信 受信
フリーダイヤル 0120-783-556 毎月 10日
9月と3月は10日・20日 30日
インターネット相談 [いのちの電話ネット相談](http://www.inochinodenwa-ne.jp/) 検索

特集 第44回 日本自殺予防シンポジウム

いのちの電話 市民講座

2019年 自死遺族支援講演会

大切な人を自死で亡くして
～心ある繋がりを求めて～

講師 木下宏明氏 岐阜県自死遺族の会「千の風の会」代表
NPO法人「After the Rain」理事

毎日約60名もの人が自ら命を絶っている現実、その周りにはつらい思いを抱える自死遺族がうまれます。
岐阜県自死遺族の会「千の風の会」代表で、2019年に設立したNPO法人「After the Rain」理事でもある木下宏明氏をお招きし、遺された方が感じる「生きづらさ」と社会での「支えあい」についてご自身の体験や活動内容をもとにお話いただきます。

2019.11.23 開演 14:00~16:00 開場 13:30
会場 名古屋市都市センター 金山南ビル 14F

講師紹介 木下宏明氏 PROFILE

岐阜県自死遺族の会「千の風の会」代表
岐阜県で大切な人を自死でなくされた方々の遺族会です。少しでも安心していただける場所をめざしています。
<https://sennokazenokai.jimdofree.com/>

NPO法人「After the Rain」理事
自死で大切な人を亡くされた方々に寄り添い、サポートする団体です。
2019年9月より毎週火曜日 22時～翌朝4時まで、電話相談とLINE相談を受け付けています。(詳細は要)

入場無料 定員100名

お問い合わせは愛知いのちの電話協会まで 平日 10:00～18:00

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 TEL 052-508-8381 FAX 052-508-8384
E-mail info@nagoya-inochi.jp
NPO法人After the Rain ~自死で亡くなったあなたへ~ TEL・FAX 052-961-6609
E-mail office@aftertherain-japan.org

てまろの相談窓口（行政機関）

- ◆あいちこころほっとライン 365
電話相談、年中無休午前9時～午後4時半
電話 052-951-2881
- ◆愛知県精神保健福祉センター
面接（要予約）、平日午前9時～午後12時・午後1時～午後4時半（※初回は水曜午前9時～午後12時）
電話 052-962-5377
メール相談 <https://www.aichi-pref-email.jp/top.html>
- ◆保健所（中核市）
面接（要予約）、平日午前9時～午後5時
電話 豊橋 0532-39-9145 岡崎 0564-23-6715
豊田 0565-34-6751

編集後記

特集したシンポジウムの開催は、暑さもまだ、只中の9月。広報誌がお手元に届くのは11月。「秋も深まり」と形容していた季節感、昔の話になりつつあります。自然には勝てないと思いつつ、人々の暮らしがどうか無事であってほしいと願うことの多い2カ月でした。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 2019年11月

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257号 2019年11月1日発行
事務局 ☎ 052-508-8381 FAX052-508-8384 発行人 小山 勇
http://www.nagoya-inochi.jp/ E-Mail info@nagoya-inochi.jp 編集人 愛知いのちの電話協会広報委員会

Contents

日本自殺予防シンポジウム特集 2・3

電話相談現場から
「聴くに徹するについて」 4

インフォメーション
「自死遺族支援講演会」 4

紹介：こころの相談窓口（行政機関） 4

NAGOYA INOCHI NO DENWA



生きようとする身体、心とは

「心」とは何だろう？という疑問から、脳科学にまで辿りついたけど、学ぶほどにわからなくなったと講演では語られました。私たちは、自分の心は一つで、自分が何を考えているか解っていると思っています。病気の治療において、医師に複数の治療方法を聞いたうえで患者自身が治療方法を選ぶインフォームドコンセントがされていますが、これも「自分のことは自分が一番よく解っている」という理由です。しかし「自分のことは自分が解っている」というのは本当でしょうか？ただ、自分のことを知っているつもり、だけではないのでしょうか？あの「我思う故に我あり」と語った高名なデカルトでさえ、心は一つで脳にあると考えていたのですが、現代の脳科学では否定されています。たとえば無味で青色と、気づかないほど弱く甘くした黄色のジュースを用意して、どちらかを選んでもらう実験をします。多くの人、甘味を意識できなくても脳の味覚野は反応するので黄色を選び、自分の意志（心）で選択したつもりなので、後付けで理由をつけて、黄色が好きだから選んだと答えます。2回目は味だけ交換して実験すると青色を選び、今度の黄色は毒々しいから嫌だと答えます。最初の黄色と同じ色なのに、心は勝手に理由を作る

のです。脳は知っているのに、私たちの心は知らないことがあり、心には一貫性がないことが分かります。では、心は脳のどこにあるかという、ガン治療でガンに侵された脳のどの部分を切削しても心がなくなることはないことも解っています。他の多くの実験・事例からも、心はどこにあるのか、どれが自分の心なのか、そもそも心は何なのかがわからなくなります。

そんななか講師は、心はひとつの国家のようなもの、と語りました。例えばアメリカならトランプという代表が言ったことがアメリカそのもののような気がしますが、実際は様々な考えや感情をもった国民がいて、その総称がアメリカです。というように、そのときの代表の声が自分の心そのものと考えてしまいますが、実は多くの声から心は成り立っているといえます。こうした考えから講師自身は、落ち込んでいる自分を俯瞰して見ることができたと言いました。つまり多くある心の要素のうち、その時一番大きく感じている「落ち込んでいる」という心の奥に隠れた多くの心があることを客観的に見ることができるようになったということです。これは周囲にいる他者に接するときも同様の対応に繋がります。もし、「死にたい」と訴える人がいて、それが今は一番大きな声「心」であっても、他に多くの心があることを識っていれば、その人の多くの声「心」を引き出すなど落ち着いた対応ができるでしょう。

また脳科学では、「死にたい」という人への対応の仕方も明示されます。「死にたい」と訴える人に対してもあまり深刻な表情で対応せず、笑顔で接します。他者の笑顔で気持ちが明るくなる経験はあると思いますが、その仕組みが脳科学のレベルで解明されています。

講演を聴きながら、本来は「心はひとつ」と感じるようになっている、と考えました。心が身体と素直に同調しているときは、その方が安定します。ところが、身体と心のズレが生じると途端に不安定になります。講演でも話されましたが、身体の中のパーツも「生きる」方向で活動しています。真逆の「死にたい」という心が生じるのは、「生きようとする身体」とは別の要因、例えば環境による心かもしれません。環境が身体の許容を超えてしまう。そんなとき、環境によって埋没させられてしまった本来の「身体に素直な心」をサルベージすること、その心の声を聴くことが大切だと考えました。
(広報委員 I)



市民公開講座 第44回 日本自殺予防シンポジウム愛知大会 特集

さる9月8日、南山大学にて『「生きる」をひもとく～より生きやすい社会をめざして～』と題していのちの電話市民公開講座を開催しました。脳科学と心についての基調講演につづき、現代社会の生きづらさを象徴する諸問題について南山大学 森山花鈴准教授のコーディネートにより、専門の講師を交えたシンポジウムが行われました。シンポジウム内容の紹介と感想等を特集記事として紹介したいと思います。



介護殺人の現状 日本福祉大学 教授 湯原悦子

未来の人々のために、今を考え抜く

湯原先生のご講演『「生きづらさ」を考える』で、現在の介護の悲惨な状況と今後の課題をお聞きしながら、私自身の介護の経験を思い出した。養母がまだら認知を発症した。財布がなくなる、けがが増える。症状は次第に悪化し、糞尿がまき散らされるようになった。養母には自覚がない。2時間かけて片付ける私達に向かって養母は喚いた。「私がそんなことをするはずがない。やったのはお前だ。なんて奴だ。恥知らず！」帰宅後、養母の罵声を浴びながら、糞尿の形跡を探し、掃除する。吐きそうな日常、吐けない日常。養母が自宅の浴室で溺れ、救急車で運ばれた。それがきっかけとなり、周囲の人々の協力とケアマネの援助で養母を施設に入所させることができた。苦痛の2年間が終わり、私達は解放された。その時の夫の上司は、自分の介護の経験から「介護は身内でやるものではありません。人に頼るものです」と言い、夫を後押ししてくれた。昨年、養母が老衰で亡くなった。施設でも問題行動が多かった養母に、施設の方々は忍耐強く対応し続けてくれた。私達にそのような介護はできなかった。養母は幸せだったはずだと思いたい。そして介護に押しつぶされることがなかった私達は幸運だった。近い将来、私も介護を受ける側になる。今、そしてその時どうしたらいいのだろう。誰も不幸にたくない。世界で最も早く高齢化社会に入った日本は、最も早く高齢化から抜け出せる国でもある。今この現状から始まる変革が、未来の人々への遺産になることを切に願ひ、湯原先生のお言葉の「すべての人々にとって生きやすい社会づくり」に向けて、今を考え抜きたいと思う。
(広報委員 S)



虐待を考える 前名古屋市長・弁護士 岩城正光

連鎖、社会の不条理と責任

『親は子どもを愛を持って育むもの、虐待なんてあり得ない』多くの人は、そういう風に考えていらっしゃる。では、虐待をしている親に子どもに対する愛情がないのでしょうか…、私は子どもを虐待死させた親の弁護を積極的にしてきましたが、親の殆どは、愛情を持っていたんです。ではなぜ虐待してしまうのでしょうか。そのメカニズムを知る事が大切なのです。加害者である親にも被害者性があります。育った境遇おいたちに、子どもを殺めなければならなくなった理由があるのです。虐待され大人になった人の多くが虐待をしてしまうという連鎖の問題もあります。子どもたちを助けたいと、この支援活動を始めたという事をよく耳にしますが、本当に必要な支援は、親の方にあります。「生きづらさ」は、個人の責任ではなく社会の責任だと声を上げることこそ、責任ある態度—と、岩城氏は、話されました。「子どもも親も被害者と見るなら、その場合加害者は誰になるのでしょうか。」そう訊いてみたかったのですが、時間切れ。私は臆げに「社会という虚構が生んだ濼（不条理）」みたいなものを思い描きました。大概は、この濼を上手に除けて生きられるのだろうけど、除けられない誠実で不器用な人が、生きづらさを抱えてしまい、最たる者が殺害や虐待などの犯罪者になってしまうのかもしれませんが。電話の向うにいる生きづらさを話す相談者も、そんな誠実な人たちの一人なのかな…、そんな事を考えさせられるお話でした。
(広報委員 Y)



自死遺族とは 愛知県自殺対策推進協議会 花井幸二

自死遺族が抱える苦悩

1998年（平成10年）に日本の自殺者数が3万人を突破し、大きな社会問題となった。ようやく2006年（平成18年）に自殺対策基本法が成立し、自殺総合対策が本格的に始まった。自殺総合対策の柱は、①自殺予防、②自殺防止、③自死遺族支援である。自死遺族は全国で300万人前後と見積もられているが、これは自殺者数の約10倍の存在である。現代を「生きやすい社会」と考えている人は少ないのではないだろうか。「生きづらい」のが今の世の中である。その中で遺族はどう生きていけばいいのか。例えば、鉄道の自殺予防ポスターの文面に違和感を持つ遺族は少なくない。これは遺族の視点がないためである。また、ネット上では、自殺によって迷惑したという遺族批判がしばしばあり、遺族は社会的な攻撃を受けたりする。このような状況の中、遺族は「生きづらさ」の中で苦しんでおり、4人に1人が死にたいと考えているという調査結果もある。このような「生きづらさ」によって遺族が自死に追い込まれる社会であってはならない。しかし、自死遺族支援の取り組みは、自助グループなどのボランティア組織に頼っているのが現状である。行政支援とボランティア活動との双方の支援の限界によって生まれる隙間を、どう埋めていくのかが、今後の課題である。社会全体で、自死遺族が抱える「生きづらさ」の苦悩について遺族の視点から冷静に取り組み、それを取り除く努力をしなければならない。
(広報委員 N)



社会福祉法人愛知いのちの電話協会

名古屋いのちの電話

<http://www.nagoya-inochi.jp/>

子ども・若者の自殺対策の推進

～学校でSOSの出し方に関する教育（自殺予防教育）を～

評議員・総務委員長・養成委員 山本 秀樹



2018年7月末「生きづらさを抱える人たちに
向けてメッセージを頂けませんか」という新聞記者の依頼に、がんで闘病しながら、いのちに向き合っている女優の樹木希林さんから以下のようなメッセージが送られてきた。亡くなる2か月前のことだ。

「昔からの本を読むと およそ 同じことを言っている
自殺した魂は 生きていた時の

苦しみどころじゃ ないそうだ 本当かどうか
は わからないけど 信用している

私は弱い人間だから 自分で命を絶つことだけは
やめようと 生きてきた こんな姿になっ
たって

おもしろいじゃない KIKI KILIN75才」

(樹木希林さんの文章から引用)

2015年厚労省発表の「自殺対策白書」では42年間で自殺した18歳以下の子どもを日別に見ると、もっとも多かったのは9月1日だったと報道され「9月1日問題」といわれるようになった。後に自殺総合対策推進センターが中学生と高校生は9月1日、小学生は11月30日がもっとも多いと報告し更新された。

2018年中における自殺者の総数は2万840人で、自殺者総数は減少傾向にあるが年齢階級別で見ると、人口10万人あたりの自殺者数を表す「自

殺死亡率」が前年より増加したのは10代だけだった。10代の自殺者数は前年比32人増の599人で学校別の自殺者数では、小学生7人、中学生124人、高校生238人で合わせれば369名にも及ぶ。19歳以下の数はむしろ微増しており、「子ども・若者の自殺対策」が大きな課題となっている。

2006年に自殺対策基本法が制定されて以降、自殺が「社会の問題」と広く認識されるようになり、国を挙げた総合的な自殺対策が推進されてきた。2016年に改正された自殺対策基本法には、「困難な事態、強い心理的負担を受けた場合における対処の仕方を身に付けるための教育」の推進が明記され、2017年に閣議決定された「自殺総合対策大綱」では、子ども・若者の自殺対策の更なる推進が重点施策の一つに位置づけられた。文科省でも「各学校が地域の実情を踏まえつつ、各教科等の授業等の一環として、SOSの出し方に関する教育（自殺予防教育）を少なくとも年1回実施するなど、積極的に推進する」としている。

これを受けて「愛知いのちの電話協会」と「CAPNA（子ども虐待防止ネットワークあいち）」は2018年8月26日には「2学期をむかえる大切なあなたへ」という市民講座を開催した。学校は新学期が始まるその日が恐怖でしかない子どもたちのSOSを出しやすい環境作りと自殺予防教育を積極的に推進することを期待する。

日本自殺予防シンポジウム愛知大会開催



「支え合いとつながりで皆で紡ぐ自殺対策」をテーマとして、9月6日～8日にかけて、第43回日本自殺予防学会総会が南山大学（名古屋市昭和区）で開催されました。この大会では、

全国から研究者や活動者が集まり、自殺予防に関する多くの研究発表が行われました。

愛知いのちの電話協会は、共催団体としてこの大会を支えるとともに、最終日の8日に、市民公開講座を開催しました。

この公開講座は、睡眠・脳科学の分野を研究する名古屋市立大学の糸和彦先生の基調講演と、4名の研究者・活動者によるシンポジウムの2部構成で行いました。

「脳科学が語る「生きる」」と題した基調講演では、「自分のことは自分が一番よく知っているから自己決定が重要と言われるが本当か?」「私は私のことを本当に知っているのか?」との問いかけから、各種の研究結果や全員参加による実験・クイズなどを交えて、元気を出す方法、悩みを聞くコツなど、電話相談にも大変参考になる興味深い話をしていただきました。

今回、残念ながら参加できなかった方は、当日の資料が糸先生のHP (<http://k-net.org/pub.html>) に当面掲載してある

とのことなので、ぜひご覧ください。

第2部のシンポジウムは、森山花鈴大会委員長（南山大学准教授）のコーディネートにより、「生きづらさ」を考えると題して行われました。シンポジストとして、介護殺人を研究する湯原悦子氏（日本福祉大学教授）、虐待防止に関する活動をしている岩城正光氏（元名古屋市副市長）、自死遺族ケアの活動をしている花井幸二氏（県自殺対策推進協議会委員）にそれぞれの研究・活動について発表していただいた後に、基調講演者の糸先生を交えて、会場からの質問などを元に話をさせていただきました。

来場者も300名以上の方に来ていただきましたが、みなさん満足していただけたのではないのでしょうか。

また、当日は協会スタッフのほか、東海学園大学の石田妙美先生と学生の方々がボランティアとして活動を手伝ってくれました。ありがとうございました。

今後も、こうした公開講座を通じて、自殺予防を訴えかけていければと思います。

（総務委員 関 利春）



事務局 だより

暑い夏には名古屋市の「スマイルデーなごや」「全国自殺予防シンポジウム」と続き、多くの市民のみなさまにお越しいただきました。その間に26期の相談員が誕生し、ボランティアに参加していただけるようになりました。

秋には、11月16日（土）の大須観音の境内において愛知いのちの電話バザー、11月23日の市民講座を行います。お問い合わせしてお越しください。お待ちしております。

いのちの華コンサート 京都カルテット

9月13日(金) ドルチェ・アートホール Nagoya
の『いのちの華コンサート』を見に行きに来ました。

収益は、「いのちの電話」の活動資金として寄付という素晴らしい企画のコンサートでした。

出演者は『京都カルテット』という名前の京都出身の男女4人組で、フルート・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロをそれぞれが演奏し、四重奏が池坊の生け花作品と上手に調和されていました。

「カノン」の説明では、同じ繰り返しの中で煌めきや発見があるという事…どこの世界も同じなんだ…と思わず考えさせられたりもしました。



最後に、「ふるさと」を全員で熱唱した時は、会場の空気もマックスで、全員の心が一つになり感動しました。ありがとうございました。

(総務委員 杉浦 志保)

賛助会員コーナー・リレーメッセージ

「笑顔と思いやり」

株式会社ボンタイン珈琲本社 代表取締役 加藤 慶人



私たち株式会社ボンタイン珈琲社は、コーヒーの生産農家とコーヒーを飲んでくださる方との橋渡しをしている会社です。

コーヒー農家の多くは、日本にいる私たちが享受しているインフラや環境とは異なる生活をしています。電気、水道、道路も設備されていないですし、また、追い剥ぎや、誘拐も稀ではありません。ところが、「笑顔で、明るく、他者への思いやり」のある人々が周囲にいることで、その生活は充実したものとなります。生産国に赴くと、「健康で、笑いや自由な会話のある環境や人々」により、風

味豊かなコーヒーの生産にもつながっていることも目の当たりにしてきました。

我が社も、創業70年を越し、新たな企業文化、労働環境を考えてゆく時期にさしかかっています。コミュニケーションのあり方は様々あり、頭を悩ますところですが、まずは、他者に目を向け、そして、耳を傾けることを常に意識することを大事にしなければと思います。「一人じゃないよ。」という言葉だけでなく、気持ちや態度で示すことで、笑顔や会話のある社会づくりに貢献したいと思っています。

活 動 報 告

7月6日(土)7日(日) 相談員宿泊研修：蒲郡
7月20日(土) 広報誌・機関紙発行 102号
7月28日(日) 静岡いのちの電話設立20周年記念式典
7月29日(月) 日本いのちの電話連盟電話相談事業委員会
7月31日(水) スマイルデーなごや出展
8月1日(木) ツイッター支援検討会
8月3日(土) 26期電話相談員認定式・歓迎会
8月27日(火) 愛知県自殺対策推進協議会会議

9月6日(金)～8日(日) 日本自殺予防学会・自殺予防シンポジウム：南山大学
9月13日(金) いのちの華コンサート
9月15日(日) 日本いのちの電話連盟インターネット相談運営委員会
9月28日(土)29日(日) 27期養成講座宿泊研修
9月30日(月) 自殺予防いのちの電話：毎月10日に加えて9・3月の20日・30日に実施
10月5日(土) いのちの電話相談員合同研修：愛知・岐阜・三重

ご援助
ありがとう
ございます

2019年4月1日から2019年8月31日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同、深く感謝いたしますと共にご報告を申し上げます。(順不同・敬称略)
なお、上記期間内に何度もご支援くださったかたもお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 小山 勇/財務委員会

法人会員・寄付

| | | | |
|-------------|--------------------|--------------------|------------|
| 株式会社青山製作所 | アマノ本部株式会社 | イリヤ化学株式会社 | 株式会社大竹製作所 |
| オフィス・コア株式会社 | 黒金化成株式会社 | 株式会社沢野商会 | 株式会社三清社 |
| 株式会社ジェイテクト | 敷島製パン株式会社 | 新明工業株式会社 | 大成株式会社 |
| タキヒヨー株式会社 | 株式会社東海通信資材サービス | 豊田合成株式会社 | トヨタホーム株式会社 |
| トヨタ紡織株式会社 | 株式会社のごみサイクルオープンハウス | 株式会社フジトランスコーポレーション | |
| 真宗大谷派崇覚寺 | 宗教法人建中寺 | 宗教法人薬師寺 | |

賛助会員 A

| | | | | | | | |
|------|-------|------|------|------|-------|------|------|
| 飯尾啓子 | 伊藤美佐子 | 内河恵一 | 大野智彦 | 柿本大真 | 神谷祐利子 | 小嶋洋一 | 小松徹 |
| 小山勇 | 下村徹嗣 | 田畑洋子 | 豊田彬子 | 梨本將代 | 西山えつこ | 浜屋義幸 | 前田豊子 |
| 松浦孝幸 | 望月千年成 | 山本秀樹 | 吉田愛子 | 渡辺徹 | | | |

賛助会員 B

| | | | | | | | |
|------|------|-------|------|-------|-------|--------|------|
| 浅井俊雄 | 今枝靖夫 | 河野登喜子 | 神田輝夫 | 菅原美智子 | 高木香代子 | 多和田いみ子 | 坂東信吾 |
| 福島五倫 | 松岡朱美 | 宮内英夫 | 村瀬政子 | 森岡鑑 | 吉岡満智子 | | 匿名1名 |

賛助会員 C

| | | | | | | | |
|--------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|
| 青木恵子 | 浅野喜代子 | 井代佳明 | 今岡敏子 | 岩佐敏志 | 大橋精二 | 小笠原覚 | 小川浩 |
| オザワヒトシ | 小瀬木尚美 | 近藤和子 | 鈴木淑子 | 鈴木美登里 | 高御堂好恵 | 藤井恵 | 北條とく子 |
| 丸山佑史 | 武藤尋子 | 柳生球子 | 山田敦代 | 山本幸江 | | | |

寄付協力団体

日本福音ルーテル復活教会女性会 光ヶ丘女子高等学校 愛知人間と性教育研究協議会 26期ボランティア有志

寄付・個人

| | | | | | | | |
|--------|-------|---------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 浅野恵美子 | 浅野喜代子 | 天野典子 | 井坂津矢子 | 石原容子 | 伊藤智美 | 伊藤美佐子 | 岩川富子 |
| 岩田圭子 | 江崎好美 | 榎本和 | 大久保義美 | 大澤一矢 | 岡崎強 | 岡田和子 | 岡野奈穂子 |
| 小川邦泰 | 小田啓子 | 加藤雅子 | 金子紀子 | 兼田智彦 | 神谷祐利子 | カミヤヤスコ | 川上厚成 |
| 清野敏子 | 粟田政子 | ゴトウムツヒデ | 子安崇男 | 佐々木広子 | 佐野美奈 | 塩野貞美 | 下村徹嗣 |
| 鈴木栄子 | 相馬幸子 | 高島史弘 | 高橋紀代子 | 滝順子 | 丹羽咲江 | 野澤奈美江 | 野田義行 |
| 野々村樹美代 | 服部真典 | 平野泉 | 藤田千勢 | 藤野宏之 | 北條とく子 | 堀田直子 | 水野真 |
| 宮里及子 | 安井享二 | 安井充子 | 柳澤幸輝 | 山下タカ子 | 山中輝弓 | ユチユカリ | 吉村恵子 |
| 渡辺直人 | | | | | | | 匿名4名 |

いつも温かいご支援を誠に有難うございます。本当に感謝を申し上げます。
毎年ご寄付をしてくださる賛助会員を募集しています。ご協力をよろしく願いいたします。
定期的に一般寄付を随時受け付けておりますので、振込用紙を同封させていただきます。

- (1) 法人賛助会員 (年間1口) A 20万円 ・ B 10万円 ・ C 5万円
- (2) 個人賛助会員 (年間1口) A 10,000円 ・ B 5,000円 ・ C 3,000円
- (3) 一般寄付を随時受け付けております。
- (4) 夏季及び歳末・クリスマスの特別寄付を随時受け付けております。

口座名 : 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
銀行口座番号 : 三菱UFJ銀行大津町支店(普) 477029
郵便振替口座 : 00810-8-53758
寄付金は、社会福祉法人として税法上優遇措置が受けられます。



社会福祉法人愛知いのちの電話協会

2019年11月

〒461-0001 愛知県名古屋市東区泉3丁目11-29 クシダビル2階
事務局 ☎052-508-8381 FAX052-508-8384
http://www.nagoya-inochi.jp/ E-Mail info@nagoya-inochi.jp

2019年11月1日発行
発行人 小山 勇
編集人 愛知いのちの電話協会総務委員会